

図 20.2③ 母斑細胞母斑 (nevus cell nevus)

あざ (birthmark)

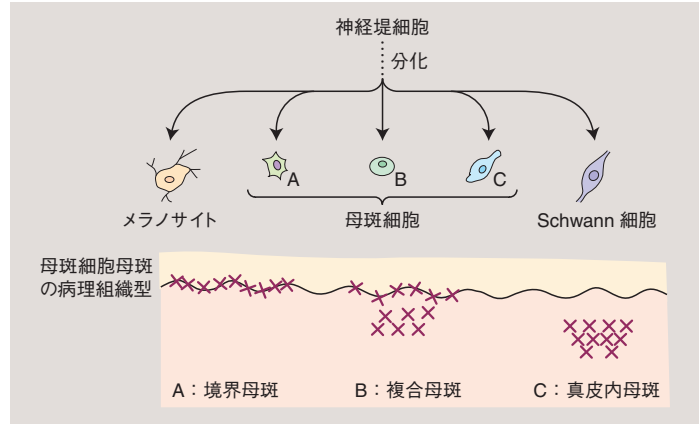


図 20.3 母斑細胞の起源および母斑細胞母斑の病理組織型

病理所見

増殖している母斑細胞の存在部位から、境界母斑、複合母斑、真皮内母斑の3型に分類される。それぞれ臨床像が特徴的である (図 20.3)。

診断・鑑別診断

悪性黒色腫との鑑別が重要であり (22章 p.481 参照)、ダーモスコピー所見 (3章 p.54 参照) が有用である。

治療

ダーモスコピー所見からも良性と考えられる母斑細胞母斑は経過観察とする。長径6mmを越える掌蹠病変や、比較的大きなものでは、悪性化リスクや整容的側面から外科的切除を基本とする。巨大先天性色素性母斑は切除、削皮術および植皮が行われるが、大きすぎて切除できない場合は悪性黒色腫の発生に注意しながら慎重に経過観察する。

通常型

1. 境界母斑 junctional nevus ★

母斑細胞が真皮表皮接合部に限局する。機能的によりメラノサイトに近く (メラニン産生能が高く)、形態的には角化細胞に類似した弱好酸性の細胞質を有するサイコロ状の大型細胞で構成される。

2. 複合母斑 compound nevus ★

境界母斑と真皮内母斑の混合型で、小型の母斑細胞母斑が多い。